

# 令和7年度 県立筑波高等学校自己評価表

|  |   |   |      |
|--|---|---|------|
| 目指す学校像   | 地域に支えられ、地域を支え、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校<br>【実践目標】正しい判断 自主的行動<br>【育てたい資質能力】他者とかがわり協働する力 自他を尊重し思いやる心 粘り強くやり遂げる力 |   |      |
| 三つの方針  | 具体的目標   |   |      |
| 「三つの方針」<br>(スクール・ポリシー)   | 「育成を目指す資質・能力に関する方針」<br>(グラデュエーション・ポリシー)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域社会に目を向け、自己を高めながら社会に貢献できる力</li> <li>○ 自己の課題を明確にし、主体的・意欲的に行動する力</li> <li>○ 地域の人々と関わり、協働的に粘り強く挑戦する力</li> </ul>  |      |
|  | 「教育課程の編成及び実施に関する方針」<br>(カリキュラム・ポリシー)  | ○ 総合的な探究の時間「つくばね学探究」を基盤として、地域と連携しながら探究し、主体的に自己の進路を切り拓く学習活動の実践   |      |
|  | 「入学者の受入れに関する方針」<br>(アドミッション・ポリシー)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学びの意義を見出し、日常での生活を前向きに取り組むことができる生徒</li> <li>○ 地域社会の一員として積極的に社会と関わり、自己の将来を見つめながら学校生活を送れる生徒</li> </ul>  |      |
| 昨年度の成果と課題  | 重点項目  | 重点目標  | 達成状況 |
| <b>【成果】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導<br/>・「つくばサポートタイム」等の取組により、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られた。</li> <li>○ 生徒支援<br/>・マナーカード指導が定着した結果、服装や授業態度が向上した。<br/>・校内研修で情報交換等を行った結果、個に応じた対応ができた。</li> <li>○ 進路支援<br/>・進路ガイダンスを充実させることにより、主体的に進路選択する資質・能力の向上を図ることができた<br/>・自己の進路に向き合い、必要な情報を積極的に入手する生徒が増えた。</li> </ul> | I 基礎学力の確実な定着と進路支援の充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校設定教科「つくばサポートタイム(TST)」や習熟度別授業、少人数授業の積極的な実施により、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るとともに、就職のための社会人基礎力の向上に努める。</li> <li>② 自己の適性理解に向けた進路講演会の開催、「進路の手引き」や関係教材等を活用したLHRを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。</li> </ul>  | B    |
|  | II 生徒支援の充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、学校と家庭が協力して、基本的生活習慣の確立に努める。</li> <li>② 「マナーカード」及び「Shihouカード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力や自己肯定感を高める。</li> <li>③ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見に努め、組織として迅速に対応する。</li> <li>④ 教職員自らが人権意識を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。</li> <li>⑤ 特別支援教育に関する理解を深めたり、カウンセリング的な相談ス</li> </ul> | A    |

別紙様式 2 (高)

|   |                      |  |          |
|---|----------------------|--|----------|
| <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事をとおして、学校やクラスへの帰属意識を高めることができた。特に百人一首大会など伝統行事の意義を共有することができた。</li> <li>・「つくばね学探究」をとおして、地域や近隣の中学校と連携を深めることができた。</li> </ul>   |                      | <p>キルを高めたりすることで、生徒の自立を支援する。</p> <p>⑥ 学校行事やボランティア等をとおして責任感、自立心、忍耐力を養い、自主的に活動するリーダー的人材を育成し、学校の活性化を図る。</p>  |          |
| <p>【課題】</p> <p>○ 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の専門性を生かした授業の展開</li> </ul> <p>○ 生徒支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員の共通理解による「正装」の概念定着を目指す指導</li> <li>・生徒が自らの長所に気付き、伸ばすための働きかけなど、自己肯定感を身に付けるための動機付け</li> </ul> <p>○ 進路支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択・決定能力を補うための、教員・保護者によるサポート体制の構築</li> <li>・進学支援体制の確立</li> </ul> <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への参加推奨と、地域に貢献し、自主的に行動できる人材の育成</li> </ul> | <p>III キャリア教育の充実</p> | <p>① 2年生におけるインターンシップ（希望制）や「つくばね学探究」を柱に、3年生では「つくばね学探究」で深化を図る。また、「キャリア・パスポート」等の活用をすすめることにより、キャリア教育を一層推進する。</p> <p>② 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けた取り組みへの理解と協力を得る。</p> <p>③ 各大学・短大の情報を整理し、進学意識の向上を図る。また、デジタル求人票を活用することで、就職内定率 100%となるよう、就職支援を充実する。</p>         | <p>A</p> |
| <p>○ 進路支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路選択・決定能力を補うための、教員・保護者によるサポート体制の構築</li> <li>・進学支援体制の確立</li> </ul> <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動への参加推奨と、地域に貢献し、自主的に行動できる人材の育成</li> </ul>   | <p>IV 地域や異校種との連携</p> | <p>① 地域の風土や自然及び教育力を生かす「つくばね学探究」をさらに充実させ、2年生及び3年生全員による体験的な学習活動を実施し、本校の目指す育てたい資質能力の育成を目指す。</p> <p>② 地域の義務教育学校訪問や大学と連携した百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛をもたせるとともに、地域を担う人材の育成に努める。</p> <p>③ 中学校や義務教育学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。</p> <p>④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。</p> | <p>B</p> |
|   | <p>V 働き方改革の実現</p>    | <p>① 各学年及び各部において、副主任が機能する組織づくりによって組織力を向上させ、働き方改革の実現を目指す。</p> <p>② 教育的効果を低減させることなく、会議、打ち合わせ等の業務の精選や実施方法の改善を図る。</p>  | <p>B</p> |
|   | <p>VI 授業の改善</p>      | <p>① 電子黒板やタブレット等の積極的活用と学び合いなどをとおして、生徒の理解力を高め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p> <p>② 教員相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。</p> <p>③ 生徒による授業満足度 75%以上を目指す。</p>  | <p>B</p> |

別紙様式 2 (高)

| 評価項目                  | 具体的目標   | 具体的方策  | 評価  | 評価 | 次年度(学期)への主な課題                                   |
|-----------------------|---|--|---|----|---|
| 国語                    | 基礎学力の向上                                       | IT形式の授業やICT機器の活用により、生徒個々の状況に応じて、基礎的な学力を身に付けさせる。<br>I①                  | B   | B  | ・生徒の基礎的な学力の把握に努める。                              |
|                       |   | 進学や就職のために必要な、基礎的な内容を繰り返し学習させることにより、語彙力を豊かにし、基礎学力の向上を図る。<br>I①          | A   |    |   |
|                       | 生徒個々の進路希望に応じた表現力の向上                           | 授業で作文指導や小論文指導の機会を設け、実践的な文章力を身に付けるとともに、進路選択に役立つような自己理解を深める契機とする。<br>VI① | A   |    | ・年間指導計画の見直しにより、効果的に作文指導の時間を確保する。                |
|                       |   | 文章を通じた自己表現を通して、自己の考えや他者の意見を的確にまとめ伝える力を身に付ける。<br>VI①                    | B   |    | ・各単元の終末における振り返りの時間に、文章表現を効果的に活用する。              |
|                       |   | 進学を志す生徒に対しては、補充的な学習や発展的な学習などを取り入れる等、進学を見据えた学力の向上を図る。<br>I①             | A   |    | ・3学年、進路支援部との情報共有により、個に応じた指導体制を構築する。             |
|                       | 学校行事やICTの活用による古典への興味・関心の向上                    | ICT機器を活用して古資料に触れながら、古典の基礎的・基本的な知識を身に付け、古典に親しむ態度を養う。<br>VI①             | B   |    | ・古典文学の良さを味わわせ、古典の基礎的な知識を身に付けさせるためのICT機器活用を推進する。 |
|                       |   | 百人一首大会を通して和歌への興味・関心を高め、古典に親しむ態度を養う。<br>VI②                             | A   |    | ・特活のHR活動との教科・領域横断的な活動を鮮明に実施する。                  |
|                       | 漢字検定の合格率の向上                                   | 小テストや演習形式の問題を通して、全体で3級以上20名程度の合格を目指す。<br>VI①                           | B   |    | ・生徒の漢検受検意欲の向上                                   |
|                       |   | 日々の授業で漢字や語彙を重要視した指導を行い、検定合格に対する意識を高め、自学学習の習慣の定着を図る。<br>I①              | A   |    | ・漢検受検(合格)のメリットを周知する。                            |
|                       | 地理歴史  | 基礎学力の向上  | 基本事項を繰り返して指導することにより、歴史的用語・地理的用語の意味と正しい標記を理解させる。<br>I① |    | A   |
| 思考・判断・表現をさせるための授業改善   |   | 生徒の思考・判断・表現を効果的に引き出すため、ICT機器を効果的に使用する。<br>VI①                          | A   |    |   |
|                       |   | グループ活動、学び合い、発表、探究的な学び等を取り入れた授業を行うことにより、生徒の主体的な学習活動を促進する。<br>VI①        | B   |    |   |
| 地理的・歴史的事象に対する興味・関心の向上 | 資料・映像等を効果的に使い、地理的・歴史的事象に対する興味・関心を喚起する。<br>VI① | A  |   |    |   |
| 教科                    | 基礎学力の定着                                       | 現代社会の用語の学習をとおして、その意味を理解し、正しく標記できるようにする。<br>I①                          | B   |    | ・単元ごとの小テストで基礎                                   |

別紙様式 2 (高)

|           |                     |  |   |   |  |
|-----------|---------------------|--|---|---|--|
| 公 民       | 思考・判断・表現をさせるための授業改善 | 生徒の思考・判断・表現を効果的に引き出すため、ICT機器を効果的に使用する。 VI①   | B | B | 知識を定着させる。<br>・身近なニュースについての簡潔な説明とタブレットを使用した授業の展開。   |
|           | 社会的事象に対する興味・関心の向上   | グループ活動、学び合い、発表、探究的な学び等を取り入れた授業における教師の発問や学習テーマの設定を工夫することにより、生徒の公共心を育成につなげる。 VI①     | B |   |  |
|           |                     | 新聞やインターネットを教材として活用し、現代社会における政治や経済に事象に関心をもたせることにより、生徒の主権者意識を高める。 VI①                | C |   |  |
| 教科<br>数 学 | 履修内容及び基礎学力の確実な定着    | TTによる指導をとおして、理解が進んでいる生徒に対する発展的な課題の提示、理解に困難のある生徒に対する個別の指導を行うことにより、個に応じた学力の向上を図る。 I① | B | A | ・時間割の関係で、TTを活用した授業を行うことがあまりできなかった。<br>・補習内容が基礎の確認に偏り、学習習慣の改善や自己管理の支援といった「根本的な課題」に十分アプローチできていなかったため、補習の内容を「学習内容の再確認」と「学習習慣の改善」の二つの視点で組み立てる。<br>・ワークブックの取り組みが「量をこなすこと」に偏り、質の高い学習に結びついていない生徒が一定数いたため、ワークブックの取り組み方について、「学習ルール」を明確に提示する。<br>・生徒の弱点は把握できたが、内容の定着にまでいたらない生徒がいたため、改善の成果を小テストや振り返りシートで定期的に可視化し、生徒自身にも達成感を持たせる。<br>・次年度以降に踏襲できるような体制の確立まで至らなかった。<br>・授業参観の機会をなかなか取ることができず、設定した |
|           |                     | 学習内容以外に支援を要する生徒に対して補習を行うことにより、履修内容の確実な定着を図る。 I①                                    | A |   |  |
|           |                     | ワークブックの活用状況を定期的に確認し、生徒の理解の程度を把握することにより、既習内容の復習を主体的に行う姿勢を育成する。 I①                   | A |   |  |
|           |                     | 「つくばサポートタイム(TST)」の時間を活用して複数の教員が細やかな指導を行うことにより、基礎学力の確実な定着を図る。 I①                    | B |   |  |
|           | 個々の進路希望に応じた学習指導     | 進学希望の生徒を対象に、課外授業や補習による受験対策を実施することにより、個々の希望に応じた学習指導を実現する。 I②                        | A |   |  |
|           | 授業の工夫改善             | 教科内での授業参観を各担当者が年間1回以上実施し、板書や発問の工夫、授業形式の妥当性、ICT機器の活用方法などの指導法を相互に検討することにより、授業の工夫改善を図 | B |   |  |

別紙様式 2 (高)

|      |                                 |  |        |   |   |   |
|------|---------------------------------|--|--------|---|---|---|
|      |                                 | る。   | IV②    |   |   | 回数まで行うことができなかった。  |
| 理科   | 基礎学力の向上                         | 単元末テストを実施することにより、生徒の理解度の把握に努めるとともに、そのテスト結果に応じた個別指導をとおして基礎学力の向上及び定着を図る。   | I②     | B | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や横断的な学習、ICTをさらに充実させ、探究的な思考を育てていく。</li> <li>・生徒一人ひとりに目を向け、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>   |
|      | 実験や観察の充実                        | 年間6回以上の実験や観察授業を実施することにより、実験器具の操作技術等の理解促進や探究的な思考力を育む。   | I①     | A |   |   |
|      | 学習意欲の喚起                         | 生徒同士の対話的な学習をとおして、自然事物に対する興味関心を高めるとともに、自然科学への学習意欲の向上をめざす。   | VI①    | A |   |   |
|      |                                 | ICT機器の利用を通じて、わかる授業の展開に努めるとともに、授業の改善方法について教科内で意見交換を行う。  | I③     | A |   |   |
| 保健体育 | 体力及び規範意識の向上                     | 運動の合理的・計画的な実践を通して、各運動の楽しさや心地よさを味わいながら、体力や運動技能を向上させる。また、服装面の指導を通して規範意識や安全に関する知識を身に付ける。                              | I①、II③ | A | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な指導により運動の楽しさを伝え、服装等の安全規律も定着した。一方で運動習慣の二極化が依然として課題である。次年度は、ICTを活用した体力データの共有など生徒が主体的に動きたくなる環境を整え、規律を自らの問題として捉え行動する規範意識の育成を重点的に進める。</li> <li>・授業で培った運動への意欲を、校外や卒業後の生活へ定着させることが今後の焦点である。そのため、地域スポーツに関する情報共有や、生徒の興味・関心に応じた選択種目の拡充を図り、生涯を通じて運動を継続するための支援を具体化していく。</li> <li>・専門知識の習得には成果が見られたが、週3回以上の運動実施率は目標の80%に届かず、知識を生活改善に活か</li> </ul> |
|      | 生涯にわたって運動に親しむ資質の向上              | 各種の運動を仲間と主体的に実践することで、自分の得意な運動種目を見つけるとともに、体育理論を通じて生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成を図る。                                | I①     | A |   |   |
|      | 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく活力ある人材の育成 | 生活習慣や交通安全、社会生活と健康等について、知識の定着を図る。また、生涯を通じて自らの健康について考え、適切に管理し改善していくための思考力や判断力を育成する。1週間あたり3時間以上運動している人が80%以上になるようにする。 | I①     | B |   |   |

別紙様式 2 (高)

|   |                        |   |  |   |  |
|---|------------------------|---|--|---|--|
|   |                        |   |  |   | す方に課題を残した。次年度はチェックシートによる振り返りを拡充し、自らの健康状態を客観的に把握・改善する自己管理能力の定着を促す。      |
| 教科<br>芸 術   | 基礎的な知識の定着及び表現・鑑賞の能力の向上 | 題材の終末に小テストを行うことにより、基礎力の定着の度合いを確認する。 I ①                                     | C                                      | B | ・特に技能面で不安を抱える生徒は、テストでも正確に表現できず、理解が表に出にくい状況があるため、小テスト以外の方法を検討したい。       |
|   |                        | 生徒の芸術的能力を見極め、個に応じた指導をする。 I ②  | B                                      |   | ・1時間当たりの生徒数が増えたため、個に応じきれない部分が増加した。持ち時間が増えても、少人数での指導が現在の生徒には向いていると思われる。 |
|   | 生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成     | 教員の芸術的資質の維持・向上のため、自己研鑽に努める。 I ①   | B                                      |   | ・自己研鑽のための時間確保に課題がある。   |
|   |                        | 芸術に対する生徒の興味・関心を引き出し、よさや美しさを味わいながら主体的に活動する態度を育てる。 I ②                        | B                                      |   | ・生徒が興味をもちそうなどところの共通点を提示することで、興味関心を深めたい。                                |
|   |                        | 題材の終末にアンケートを行い、芸術を愛好する心情の高まりを把握するとともに授業を「意欲的に取り組んでいる」生徒の割合を75%以上にする。 I ②VI③ | B                                      |   | ・技能面の得意・不得意によって授業参加の姿勢に差が生じやすく、活動内容の工夫が課題である。                          |
|   | 教科<br>英 語              | 基礎学力の定着と学習意欲の喚起   | 単元ごとに小テストを行うことにより、生徒の理解力を定期的に確認する。 I ① |   | A  |
| 生徒に必要な支援を個別に行い、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる I ②                |                        |   | A                                      |   |  |
| 長期休業中の課題と休業明けの定期テストを組み合わせることにより、家庭での学習の意欲を喚起する。 I ① |                        |   | A                                      |   |  |
| 検定に合格できる力の養成  |                        | 進学コースの生徒については、進路に応じた対策を実施し、英検準2級レベルの英語力を養う。 I ②                             | A                                      |   |  |
|   |                        | 地域キャリアコースの生徒については、英検対策や単語テストを授業と定期テストで実施し、英検3級に合格できる実力を養う。 I ③              | A                                      |   |  |
| 個の実態に即した授業展開と                                       |                        | 生徒のニーズに即してICT機器や教材を活用し、授業内容の理解の促進を図る。 IV①                                   | B                                      |   |  |

別紙様式 2 (高)

|           |                            |   |   |   |   |
|-----------|----------------------------|---|---|---|---|
|           | 教材研究                       | 検定の取得や研修会への参加を通し、教員が自己研鑽に努める。 IV②   | A |   | 反映させる。<br>・英語が得意な生徒と苦手な生徒の差が大きいため、プリントなどを活用し、学力に応じた指導を心がける。   |
|           |                            | ALT を積極的に活用し、主として生徒のスピーキング、ライティングの力を高める。 I ②  | A |   |   |
|           | 授業改善に向けた教科内の協議の実施          | 4 技能を統合的に育成する授業と観点別評価の在り方を検討し、授業改善に資する。 I ②   | A |   |   |
|           |                            | 各施策について、教科会で話し合いを持ち、授業改善に努め、授業満足度を高める。 IV③  | B |   |   |
| 教科<br>家 庭 | 基礎的・基本的な知識と技術の定着           | ICT 機器を効果的に活用するとともに、プリントやワークシートを工夫することにより、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。 I ①                    | B | B | ・生徒自身が主体的に学びを深められるよう、ICT 活用を工夫する。<br>・TT を活用した個別指導では、役割を明確化し、全ての生徒の理解状況を把握しながら指導に当たる。<br>・実験・実習や体験的な活動をより効果的かつ計画的に取り入れる。<br>・継続して生徒の自主的な態度を育成する取組を推進する。 |
|           |                            | グループ活動による学び合いや、TT を活用した個別指導、課外授業の充実を図る。 I ①   | B |   |   |
|           | 生活の充実向上を図る資質・能力に育成         | 実験・実習や体験的な活動を多く取り入れることにより、学習内容をより具体的でわかりやすくする。 I ②                                    | A |   |   |
|           |                            | 最新の話題やニュースと日常生活を関連づけることにより、生徒が自らの生活課題の解決を図ろうとする実践的態度を育てる。 I ②                         | B |   |   |
| 教科<br>情 報 | 情報収集と処理する技術の習得             | 信憑性と真実性を考慮して正確な情報を収集し、的確に処理する技術を身につけさせる。 I ③  | A | A | ・生徒の興味、関心を引き出すことにより情報に関する基礎的な知識の定着を図る。  |
|           | 情報の有用性との理解と活用能力の向上         | 情報の種類と情報の有用性についての判断力を身に付けさせるとともに、IT の活用能力の向上に努める。 I ②                                 | B |   |   |
| 教科<br>商 業 | 基礎的知識の習得                   | ハードウェアとソフトウェアの違いを理解させるとともに、コンピュータの5大機能及びその役割について理解を深める。 I ①                           | A | B | ・基礎的な技術の向上に努めるとともに、情報の利活用のメリットとリスクの理解に資する学習を展開する。<br>・個々の生徒の進路希望を把握し、効果的な資格取得の推奨に努める。   |
|           |                            | ビジネス計算を通じて、電卓の各機能の使い方と技術を身に付ける。 I ①   | B |   |   |
|           | 情報処理能力と商業人としての資質の育成        | 入手した情報を適切に処理する力を身に付けさせるとともに、著作権、情報モラル及び情報セキュリティについての認識度を高めさせることにより、商業人としての資質を高める。 I ① | B |   |   |
|           | 資格取得の奨励                    | 卒業後の進路選択の広がりやを考慮し、上級資格を取得させるための指導を工夫する。 I ③   | B |   |   |
|           | 基礎学力の確実な定着及び個に応じた発展的な学習の展開 | 各教科における指導と評価の一体化及び観点別評価を確実にを行うとともに、授業担当者が自身の学習指導を振り返るための相互授業参観等の機会を年2回以上実施する。 I ①VI②  | B |   | ・相互授業参観をとおして、教員同士で指導方法の改善や  |

別紙様式 2 (高)

|     |                  |  |   |   |  |
|-----|------------------|--|---|---|--|
| 教 務 |                  | 校内における相互授業参観や対外的な授業公開を行うことにより、指導方法の工夫と改善をととして、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。<br>VI①②                               | B | A | 工夫点についての情報共有の機会を作る。  |
|     |                  | 生徒の学習到達度や学習内容の理解の程度に応じて、習熟度別授業や少人数授業、TT による授業を行うとともに、ICT を活用するなど、生徒の主体的な学びの姿勢を引き出す。<br>I ①、VI①             | B |   | ・引き続き生徒の主体性を育む授業づくりに励む。  |
|     | 事務処理の効率化         | ICT 機器の効果的な活用及び業務の見直しや改善をととして、成績処理等の事務処理の効率化を図る。<br>V②   | A |   | ・校務支援システム等の運用マニュアルを作成・更新する。校務支援システム等の年度更新作業を円滑に実施する。生徒の個人用端末のネットワーク設定を円滑に実施する。校務用パソコンと教育用 Chromebook を更新する。情報セキュリティ実施手順を定める要項等を更新する。 |
|     | 図書館利用の促進と豊かな心を養う | 学校図書館の役割・意義を教職員相互に再認識した上で、書籍の貸出しや読書をする場所の提供のみにとどまらず、生徒の主体的な学習活動の支援及び情報の収集・選択・活用能力の育成の場としての環境づくりを行う。<br>I ① | A |   | ・図書館利用者の利便性向上のために、スマホ・PC から蔵書検索ができる無料サービス「カーリル」を導入したい。外国籍生徒など日本語に不慣れな生徒にとって利用しやすい環境づくりとして、図書館利用ガイドにふりがなや誤表記を追加するなど工夫したい。             |
|     |                  | 「図書だより」を定期的に発行するなどの情報発信を積極的に行うことにより、生徒が気軽に利用できる場としての環境づくりに努める。<br>I ①                                      | A |   | ・生徒の居場所としての図書館の機能だけでなく、今後は読書率向上を目指し、ディスプレイなどの展示の工夫を行っていききたい。   |
|     |                  | 作文コンクールや読書会などの開催を通じて、豊かな心と読書に親しむ態度を養う。 I ①   | B |   | ・作文コンクールや読書会などの開催の周知方法について検討する。  |
|     | 後援会活動の活性化        | 後援会役員と学校との連携を密にする。<br>II ①、IV④   | A |   | ・引き続き保護者に対して学校行事への参加を促す努力を   |

別紙様式 2 (高)

|              |   |  |   |   |   |
|--------------|---|--|---|---|---|
|              |   | 後援会行事を活性化するため、保護者に対して学校の教育活動の情報発信を充実することにより、後援会活動についての理解を求める。<br>II①、IV④               | A |   | していきたい。<br>・今後も学校と後援会役員との良好な関係を築きつつ、後援会活動への理解を求めていきたい。  |
| 進路指導         | 進路実現のためのキャリア教育の円滑な実施  | 探究学習においてはキャリア教育を見据えた学習活動を実施するために、作文指導や面接練習、SPI 対策を円滑に実施するためのサポートを行う。<br>III①           | A | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習と連動した作文・面接、個別 SPI 指導により実践力を高め、計画通りガイダンスを実施した。今後は筆記試験対応力を強化するため、次年度は SPI 演習の回数や学習機会を組織的に拡充し、指導体制の充実を図る。</li> <li>・来校者との情報交換により迅速なマッチングを実現したが、教員による企業訪問や新規開拓には課題を残した。次年度は訪問計画を早期に策定し、既存先との関係深化と並行して、新たな受入れ先の開拓を加速させる。</li> <li>・3 学年職員と進路支援部の連携による個別指導や求人確保に注力し、就職率 100%と進学者 10 名以上を達成した。次年度は進路支援部との連携を強めて個別面談の回数を増やし、早期に適性把握を深めることで、ミスマッチのない確実な進路実現を支援する。</li> </ul> |
|              |   | 進路ガイダンスやバス見学会等の実施により、生徒が自分の進路を主体的に考える機会を増やす。<br>III①                                   | A |   |   |
|              | 進路意識の向上と、進路実現に必要な自己力の育成   | 「進路の手引き」を発行し、生徒及び保護者の積極的な活用を促進することにより、キャリア教育の充実を図る。<br>III③                            | B |   |   |
|              |   | 外部講師による講話や、先輩（卒業生含む）の経験談を聞く会及び「進路指導の手引き」の活用等を通じて、自分の進路を考え、進路意識を高める。<br>III①④           | A |   |   |
|              |   | 特別な支援や配慮を必要とする生徒に対して、特別支援コーディネーター及び外部機関と綿密に連携し、進路実現のための準備を早期から実施する。<br>III②            | A |   |   |
|              |   | 企業や上級学校等からの来校者を通じて進路に関する情報交換を充実する。また、教員による企業訪問やインターンシップを積極的に行い、受入れ先企業の開拓につなげる。<br>III② | B |   |   |
| 個に応じた進路指導の工夫 | 安定した求人確保のために、ハローワークを定期的に訪問する。また企業を定期的に訪問し、本校の教育活動を具体的に説明することにより、求人の新規開拓に努める。<br>III③    | A  |   |   |   |
|              | 外部模試や classi 活用し、授業改善や受験指導の充実を図り、大学・短大進学者 10 名以上を目指す。<br>III③                           | A  |   |   |   |
|              | 求人票デジタルシステムを導入し、生徒及び保護者が学校以外でも情報を閲覧できるよう、使用方法を指導することにより、学校斡旋による就職決定率 100%を達成する。<br>III③ | A  |   |   |   |
| 生徒支援         | 基本的な生活習慣の確立及びマナーやモラルの向上   | 登校指導や下校指導、昼休みの巡回指導等を計画的に通年で行うことにより、生徒が安全で安心できる学校の生活環境づくりを行う。<br>II①                    | A |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画及び月間計画を職員間で共有し、学校全体で統一した指導ができる体制を整える。</li> </ul>  |

別紙様式2 (高)

|      |                               |  |   |  |  |
|------|-------------------------------|--|---|--|--|
|      |                               | <p>頭髪服装等の身だしなみを整えさせたり、より良い生活習慣を確立させたりすることにより、日常生活の意識向上を図り、遅刻者数・早退者数の減少を図る。 II①</p>       | B | B  | <p>・生活習慣の指導について、家庭とも連携し、情報共有や啓発資料の提供を行う等、サポート体制を強化する。</p>      |
|      |                               | <p>「マナーカード」指導について職員の共通理解を図り、全教職員が一体となって生徒支援を行う。 II②</p>                                  | B |  | <p>・マナーカードをより使いやすくするため、使用目的・使用基準・具体的な場面例を職員間で共有し、運用の統一を図る。</p> |
|      | 生徒の問題行動等及びいじめ事案に対応する教員のスキルアップ | <p>校内研修等を行うことにより、面談技術の向上を図るとともに、学校組織全体の生徒支援スキルの向上を目指す。 II④</p>                           | B | <p>・研修内容を全職員で共有し、個々のスキル向上だけでなく、組織全体の生徒支援力の向上につなげる。</p> |  |
|      |                               | <p>いじめ事案の対応について職員間で共通理解を図ることで、いじめ事案に対し迅速かつ組織的に対応できるようにし、いじめの未然防止と早期発見に努める。 II③</p>       | B | <p>・いじめ対応フローを職員全体で再確認し、スムーズかつ組織的な対応ができるよう体制を強化する。</p>  |  |
| 保健厚生 | 学校安全の確保                       | <p>施設・設備の安全点検や、清掃分担の工夫・清掃用具の補充により、学習環境の向上に努める。 II①②</p>                                  | A | A  | <p>・安全管理を確実にを行うため、チェックリストを整備する。</p>                            |
|      | 教育相談の充実                       | <p>教育活動全体の中で、生徒の些細な変化や支援を要する生徒の把握に努める。また、教員間で情報共有を密にし、スクールカウンセラーの活用を促進する。 II③④</p>       | A |  | <p>・予約枠に空きがあるときは、全体に周知し空きがでないようにする。</p>                        |
|      |                               | <p>スクールカウンセラーなどの協力により、教育相談に関する校内研修会を実施する。 II④</p>  | A |  | <p>・SCとの事前打ち合わせを行い、より効果的な研修となるようにする。</p>                       |
|      | 健康課題の解決                       | <p>日々の健康観察により、感染症の発生や流行の兆し等の早期発見に努める。 II①</p>  |   | <p>・冬季の感染症流行に向けて、日々の健康観察を継続して行う。</p>                   |  |
|      |                               | <p>定期健康診断結果を速やかに生徒に通知し、自己の健康観管理をサポートする。また、家庭との連携を図り、要精密検査の生徒が確実に医療機関につながるよう支援する。 II①</p> | B | <p>・要精密検査の生徒は、夏季休業以降も継続して支援を行う。</p>                    |  |
|      |                               | <p>保健だよりを活用して健康教育の推進を図る。また、自己の健康を意識し、健康課題の解決に向けて主体的に行動できる生徒の育成を目指す。 II④</p>              | B | <p>・保健指導や啓発を継続して行う。</p>                                |  |

別紙様式 2 (高)

|         |                                   |   |   |   |  |
|---------|-----------------------------------|---|---|---|--|
| 特別活動    | 学校行事や委員会活動を通して、帰属意識、協調性、責任感を養う    | 学校行事を通して学校への期待感を高め、愛校心を育み、学校への帰属意識の高揚へとつなげる。<br>II⑥                                       | A | A | ・実行委員会や生徒会が中心となり、生徒主体で学校行事の準備、当日の運営を行うことができた。            |
|         |                                   | 各種委員会を精選することで、存置した委員会の活動をさらに充実させ、委員会活動を通して、責任感・達成感・自己有用感を感じられるようにする。<br>II⑥               | A |   | ・保健委員会を復活させた。各委員会で活動内容の見直しを行った。                          |
|         | 部活動への積極的な参加とその継続を図る               | 部活動の地域移行について、校内会議、アンケート、研修、外部団体との意見交換を行う。<br>V②   | B |   | ・部活動の精選を進めながら、部活動の在り方についても更に検討をしていく。                     |
| つくばね学探究 | つくばね学探究の充実                        | 有機的に繋がる三年間のつくばね学探究プログラムを、コース別に再構築する。<br>IV①   | A | B | ・次年度は、完成年度を踏まえて、コース別にさらなる充実を図る。                          |
|         |                                   | つくばね学探究プログラムの効果的、効率的な運用を図り、生徒の主体的かつ協働的な活動を促すとともに、教員の負担軽減に努める。<br>V②VI①                    | B |   | ・次年度は、ICTの導入により、外部機関と連携して、指導の効率化を図る。                     |
|         |                                   | 外部機関との連携に努め、維持及び強化を図る。<br>IV②③④   | B |   | ・外部機関のソースを十分に理解し、継続的な連携について研究する。                         |
|         | つくばね学探究の対外的発信                     | つくばね学探究の成果発表のため、外部コンテストへの参加を奨励する。<br>II⑥  | A |   | ・参加に当たっては、学校の指導計画と連携した取組となるよう、調整を図る。                     |
| 1 学年    | 基本的な生活習慣の確立及び地域とのつながりを意識した学校生活の指導 | 家庭との連絡を密にして協力しながら、生徒の欠席・遅刻・早退の数を減らし、基本的な生活習慣を確立できるよう指導の充実を図る。<br>II①②                     | A | B | ・連絡手段やタイミングを適切に工夫し、面談指導等を通して生徒の意識変容を一層促していく必要がある。        |
|         |                                   | 服装・頭髪指導をとおして、校則を遵守する大切さに気付かせ、実践目標である「正しい判断」ができる力を生徒に身に付けさせる。<br>II①②                      | A |   | ・今後は指導後の振り返りや生徒会を交えた意見交換の機会を設け、主体的に判断できる力を育成する指導へ発展させたい。 |
|         |                                   | 生徒との面談を適宜行ったり、保護者や SC、SSW との連絡を密に行ったりすることで生徒理解に努めるとともに、教員間で情報を共有し、問題行動等を未然に防ぐ。<br>II①②③④⑤ | A |   | ・生徒の感情面を把握できる仕組みや指導記録の統一によって見逃し防止を図る必要がある。               |

別紙様式2 (高)

|                       |     |   |   |  |  |
|-----------------------|-----|---|---|--|--|
|                       |     | 「つくばね学探究Ⅰ」や学校行事の活動を通じて、地域との連携・共生を目指す。Ⅳ①②                      | B |  | ・中間報告会への参加に向けた事前指導を充実させ、長期的視点に立った探究活動へつなげたい。                                 |
|                       |     | 校内外での挨拶、校外ボランティアへの参加を励行し、地域とのつながりを意識して学校生活を送れる生徒を育む。Ⅱ⑥        | B |  | ・活動後の振り返り共有や、生徒企画型の取組を特活部と検討し、一部の経験を全体の行動変容につなげることが望まれる。                     |
| 個々に応じた学習指導の充実、基礎学力の向上 |     | 生徒一人一人の状況を把握し、授業担当者や家庭との連絡を密にして学習習慣の定着や基礎学力の向上を目指す。Ⅰ①         | B |  | ・部活動やスマートフォン、アルバイトと学習との両立が課題であるため、効率的な学習方法指導および学習計画へのフィードバックにより、学習の質向上を図りたい。 |
|                       |     | 「つくばサポートタイム(TST)」を活用して、生徒の学習のつまずきを発見し、基礎学力の定着を図るための指導を充実する。Ⅰ① | B |  | ・生徒一人あたりの指導担当教員数を削減できておらず、大きな教育的負担が課題である。                                    |
|                       |     | 成績不振の生徒に対し、学年職員全体で生徒個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目を克服できるよう支援の充実を図る。Ⅰ①  | B |  | ・支援担当制や進捗管理の可視化により、継続的に生徒の学習を支える体制の構築が望まれる。                                  |
|                       |     | 1年生からLHR、進路ガイダンスや体験学習などの進路学習の機会を活用して、進路実現に向けて個々の進路意識の素地を育む。Ⅰ② | B |  | ・仮志望面談や先輩・卒業生との対話を通して、自身の適性を踏まえた進路選択につなげていきたい。                               |
| 進路について自分で考えるための素地づくり  |     | 外部模試の実施や課外、講座等を活用して、生徒へ様々な情報を提供し、進路についての意識づけを図る。Ⅲ②③           | B |  | ・模試後面談による学習計画の作成や模試の体験共有など、結果を活用する取り組みへ転換する必要がある。                            |
|                       | 2学年 | 基本的な生活習慣を身に付けさせ、落ち着いた学校生活を送らせる                                |   | 家庭との連絡を密にし、遅刻・欠席の減少を中心として、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう支援する。Ⅱ① | B  |

別紙様式 2 (高)

|                         |  |   |   |   |   |
|-------------------------|--|---|---|---|---|
|                         |  |   |   |   | 階的指導を徹底していく。  |
|                         |  | ピアス等の装飾品指導をとおして、生徒の意識改善を促進し、マナーカード発行数の減少を目指すことにより、マナーとモラルを尊重する生徒を育成する。<br>II② | B | A | ・マナーカードを指導の意味付けとコミュニケーションツールとして活用した結果、服装に関する発行枚数は減少しており、進路決定にも関わるマナーや基本的な生活習慣・モラルの定着に向けて、学年で共通理解を図り指導を継続していく。   |
|                         |  | 生徒との面談を適宜実施し生徒理解に努め、問題行動等を未然に防ぐ。<br>II③                                       | B |   | ・昨年度に比べ特別指導の件数は減少しており、教員のこまめな声掛けや担任による随時面談によって問題行動の未然防止が図られたことから、今後も生徒の細かな変化に目を配り、気付いた点を職員間で共有できる雰囲気づくりを心掛けていく。 |
| 基礎学力の向上に努め、学習に取り組む環境づくり |  | 課題や提出物の指導をとおして、授業に主体的に取り組む態度を育成する。<br>I①                                      | A |   | ・後期に入り進路について考える機会が増えたことで主体的に授業に取り組む姿が見られるようになってきたため、生徒の主体性をさらに伸ばすために、面談等を通して早期に進路目標を明確にさせていく。                   |
|                         |  | 学習に困難を抱える生徒に対して、家庭との連携を密にしながら基礎学力の向上を目指し、生徒の自立を支援する。<br>II⑤                   | A |   | ・保護者や本人の要望を踏まえ可能な範囲で対応するとともに、生徒の成功体験を評価して自尊感情の育成を図り、社会に出る上で必要な基礎学力の定着に向けて、T S Tの時間を活用した個に応じた支                   |

別紙様式 2 (高)

|                                    |  |   |   |  |
|------------------------------------|--|---|---|--|
|                                    |  |   |   | 援を行っていく。   |
|                                    |  | T S Tを活用し、基礎学力の向上と、生徒一人一人の進路実現を目指した授業の工夫や改善などに努める。<br>I ①                               | A | ・就職試験に必要な一般常識や志望理由書の指導を通して進路実現に向けた知識・技術と意識の向上が図られたことから、次年度は進路希望に応じたニーズ別の支援となるよう指導方法を工夫していく。  |
| 生徒の進路実現を目指した学力の養成、キャリア教育の充実と地域との連携 |  | 進路ガイダンス、バス見学会等の進路行事や個別面談を通じて生徒に将来の目標をもたせ、望ましい勤労観・職業観を育成し、進路意識の醸成を図る。<br>III ②           | A | ・多様な職業や学校を比較・検討する機会を通して生徒の進路の幅は広がっていることから、進学フェアの事前指導を充実させるとともに、進路ガイダンスや個別面談、Classroom やスクリレを活用し、生徒・保護者双方に分かりやすく進路決定までの道筋を示して進路実現につなげていく。           |
|                                    |  | 「つくばね学探究 2」を通じて、社会人として備えるべき資質・能力を育成し、自己実現や進路実現のための知識の育成を目指す。<br>III ①                   | A | ・地域課題の発見と解決方法を検討する探究活動を通して主体的に考え、変化の激しい社会に対応する力を育むとともに自己を振り返り将来に生かす機会となっていることから、「つくばね学探究 3」では各グループのテーマに応じた実践的活動を行い、受け身ではない積極的な行動を促して主体性を身に付けさせていく。 |
|                                    |  | 「つくばね学」をとおして、地元の風土や自然を学び、地域の人とふれ合うことで、生徒のコミュニケーション能力の育成及び地域課題の発見や解決を目指す態度を育成する。<br>IV ① | A | ・フィールドに出るグループは事業所や施設利用者との交流を通して多様な価値観に触  |

別紙様式 2 (高)

|      |              |   |   |   |   |
|------|--------------|---|---|---|---|
|      |              |   |   |   | れコミュニケーション能力を育み、進路探究グループも自己理解や進路探究を将来に生かそうとしていることから、今年度は事業所の精選や実習回数の見直し、教員の担当制により探究を深化させ、今後も自習中心に偏らない新たなつくばね学の形を検討していく。         |
|      | I C T教育の充実   | 教員間の連絡事項だけでなく、S H Rや授業でも電子黒板やタブレット端末のほか、Classroom等を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 VI① | B |   | ・各クラスで連絡事項の共有や健康観察に Classroom を活用してきたものの、生徒のタブレット持参率が低く十分な活用には至っていないため、今後は授業での使用機会を増やすことで、端末準備が難しい生徒にも配慮しつつ持参率の向上を図っていく。        |
| 3 学年 | 「チームで働く力」の向上 | 少人数授業やグループワークを通じて、発信力と思考の柔軟性を高める。 I ①   | B | A | ・学年計画である LHR、つくばね学探究において、多様な視点や価値観を理解し、自分の考えを修正・発展させることができた。<br>クラスを超えた枠組みを積極的に取り入れたり異なるグループと交流したりすることで視点の差に気づかせ、さらに柔軟性を高めさせたい。 |
|      |              | 学校生活を通じて、社会のルールを守るだけでなく自らの行動を律することができるようになる II①②                                    | B |   | ・成人年齢に達した生徒が多く、「マイルールより社会のルール」を繰り返し伝えることによって、自己の優先を下げることができるようになった。   |

別紙様式 2 (高)

|  |  |   |   |  |
|--|--|---|---|--|
|  |  | 個別面談を密に行い生徒それぞれの希望、適性に応じた進路実現を目指す I② III②③                                | A | ・1月末で90%が進路決定。前年度からの面接指導、小論文指導、6月の三者面談など例年よりも早めの指導を行った結果、個別面談の時間が増えた。                    |
|  |  | つくばね学探究をとおして、発信力、思考の柔軟性、状況把握力を身に付ける。 IV①V①                                | A | ・発表会をポスターセッション形式にしたことにより、発信力、柔軟性等の力が高まった。<br>3年間の実施計画を立案し、特に振り返りの中で状況認識を言語化される活動につなげた。   |
|  |  | 電子黒板、Classroom、タブレット端末等を積極的に活用し、進路支援において最新の情報を保護者、生徒に伝えることができるようにする。 III② | A | ・履歴書や志望理由書作成を、タブレット端末を利用することで時間短縮につながった。教育情報ネットワークメールアドレスを利用することで、個々に必要な情報も速やかに送ることができた。 |

※評価基準 A：目標が十分に達成された（達成度 80%以上） B：ある程度成果が見られた（達成度 60%以上） C：取り組んだ（達成度 40%以上）  
D：課題を残した（達成度 20%以上） E：取り組むことができなかった（達成度 20%未満）